

進捗状況の概要（１ページ以内）

学内の実施体制については、全学一体として本取組の遂行に当たるため、学長を長とし、各学科教員、事務担当者も含めたAP推進委員会を設置し、全体進行の進捗状況を定期的に確認するとともに、他の学内各委員会と連携して取組を遂行している。また、評価母体として、AP評価委員会を組織し、年度末には取組全体および各プログラムについて評価・提言を受け、次年度の取組に反映させている。

中心となる取組の進捗状況は、以下の通りである。①クラウド型ポートフォリオシステム（以下、e-ポートフォリオ）が実稼働し、ルーブリックを活用した観点別成績評価、及び学習成果に応じた授業内容・方法への自律的な修正の仕組みが整った。②専門職域で求められる資質能力形成に向けて、現場体験プログラム（インターンシップや現場体験等）の能動的学習を積極的に組み込んだ教育課程の見直しを行った。③e-ポートフォリオに収められた個々の学生の学習成果の修得状況（定量的評価、定性的評価）を、「ディプロマ・サプリメント」として発行することが可能になった。④高校生の専門職域への理解促進を図る観点から、近隣の高校と連携して、家庭科で実施される保育体験の事前事後指導に教員派遣で協力する保育体験プログラムを実施した。⑤本取組に対するアセスメントとして、新規就職者に対する既卒者訪問プログラムを実施し、卒業後における「学習成果」修得状況についての評価と支援を行った。また、在学生の資質能力の伸長を確認するためジェネリックスキル測定（PROG）を行った。更に、外部からのアセスメントとして、専門職養成を主とする大学、他のAP採択大学等を訪問し、取組計画および実施状況の把握、進捗状況、成果と課題の把握をするとともに、意見交流を行った。年度末には、中間評価シンポジウムを実施するとともに、外部人材を含むAP評価委員会を開催し、取組並びに取組進捗状況のアセスメントを行った。

取組の成果は、以下の通りである。①e-ポートフォリオを活用した観点別成績評価結果を踏まえた、個々の学生に対する面談カウンセリングの実施を通して、学期毎の学生の学習成果の修得状況（自己評価）を精緻に把握できるようになるとともに、それらの状況は、教職員間で情報共有されることで、個別かつ継続的な支援ができるようになった。また、教員の自律的な授業改善の仕組みが整った。②現場体験プログラム（インターンシップや現場体験等）で得られた学習成果については、e-ポートフォリオに定性的評価として継続的に蓄積され、学習成果の修得状況をより精緻に把握できるようになった。③「ディプロマ・サプリメント」の発行により、個々の学生の学習成果の修得状況（定量的評価、定性的評価）を可視化することができるようになった。④保育体験プログラムの実施により、高等学校の教育課程と積極的な連携が促進され、高校生の専門職への理解と意欲が高まった。⑤既卒者訪問プログラムにより、本学新規就職者の「学習成果」に応じた資質能力形成状況が確認された。また、在学生へのジェネリックスキル測定（PROG）により、卒業時の資質能力が確認でき、卒業後の能力調査についての基礎データを得ることができた。更に、専門職養成を主とする大学、他のAP採択大学への訪問、中間評価シンポジウムの実施、AP評価委員会の開催により、多くの助言を得て、取組改善及び次年度の取組計画の見直しができ、本取組成果の一層の向上を図ることができた。

補助期間終了後の継続発展に向けた取組は次の通り。本取組は、各年次報告書に示す「成果と課題」に従い、取組自体を発展させているが、補助事業終了後においても、同様に取組を展開する。また、本学の改組転換（平成31（2019）年度入学生を以て募集停止、2022年度の4年制学部開設に向けて、2021年度に設置申請予定）における継承教育機関において、本取組内容を基盤とした教育プログラムを展開する予定である。

学内外への波及効果としては、本取組の先駆的な点（厳密な成績評価と教員の授業に対するアセスメントを組み合わせ、学習成果の向上を体系的に推し進める点）の積極的発信を行い、取組成果の共有化を進めたことが挙げられる。学内外からの参加者を得た中間評価シンポジウムを実施し、本取組成果を示すと共に、それらの成果は年次報告書としてまとめ、全国の大学に告知した。